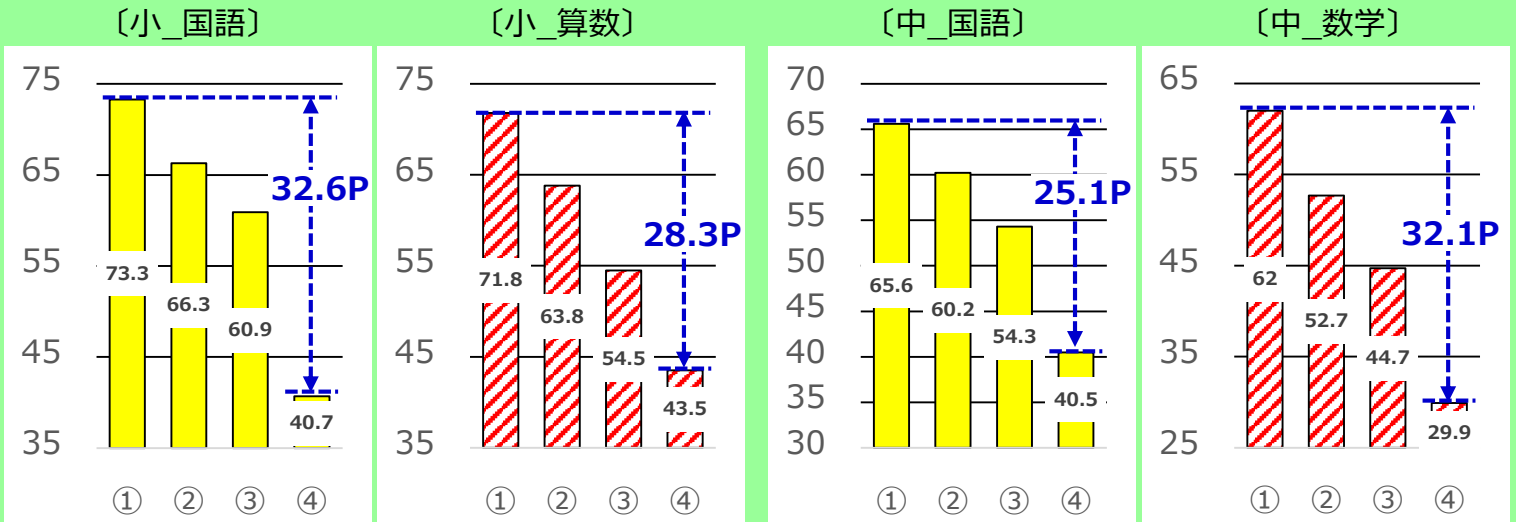


令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅢ 質問紙調査（学校生活全般及び生活習慣に関すること）

前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

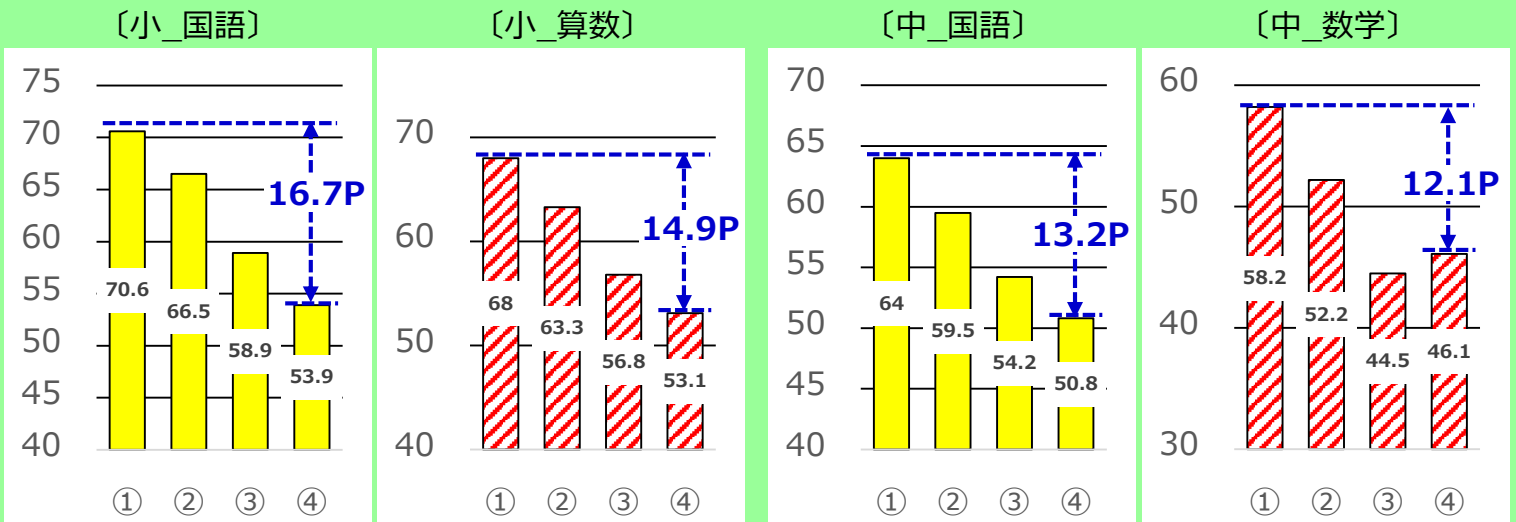
■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



（※ ①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない）

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

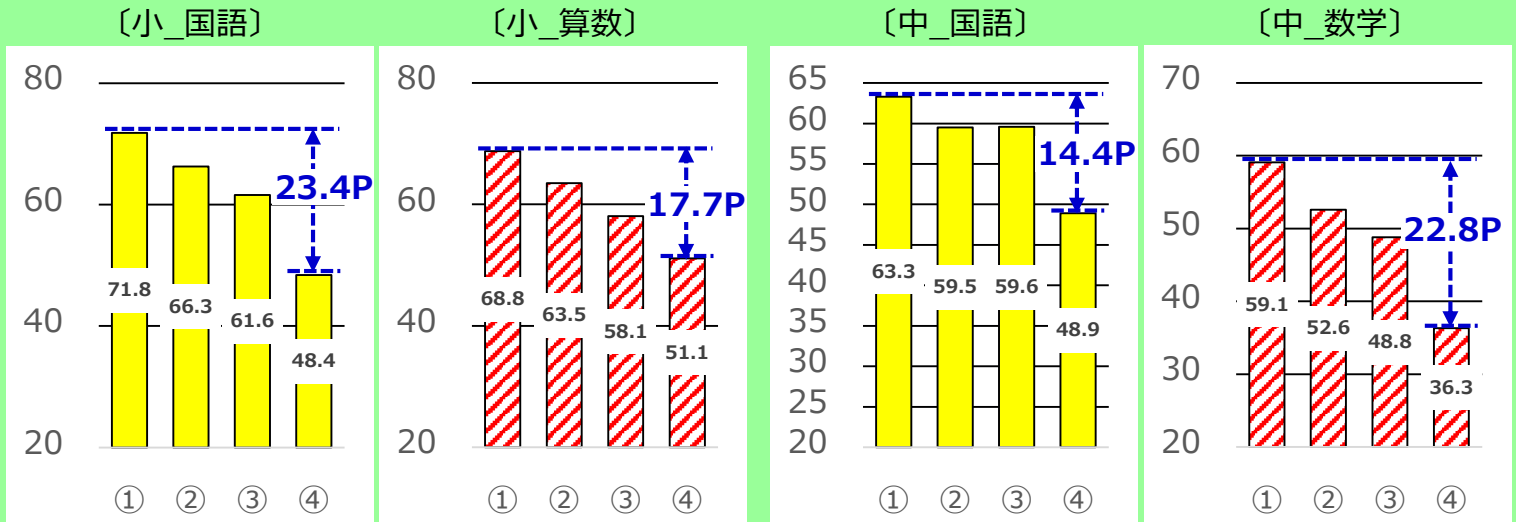
■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



（※ ①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない）

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか

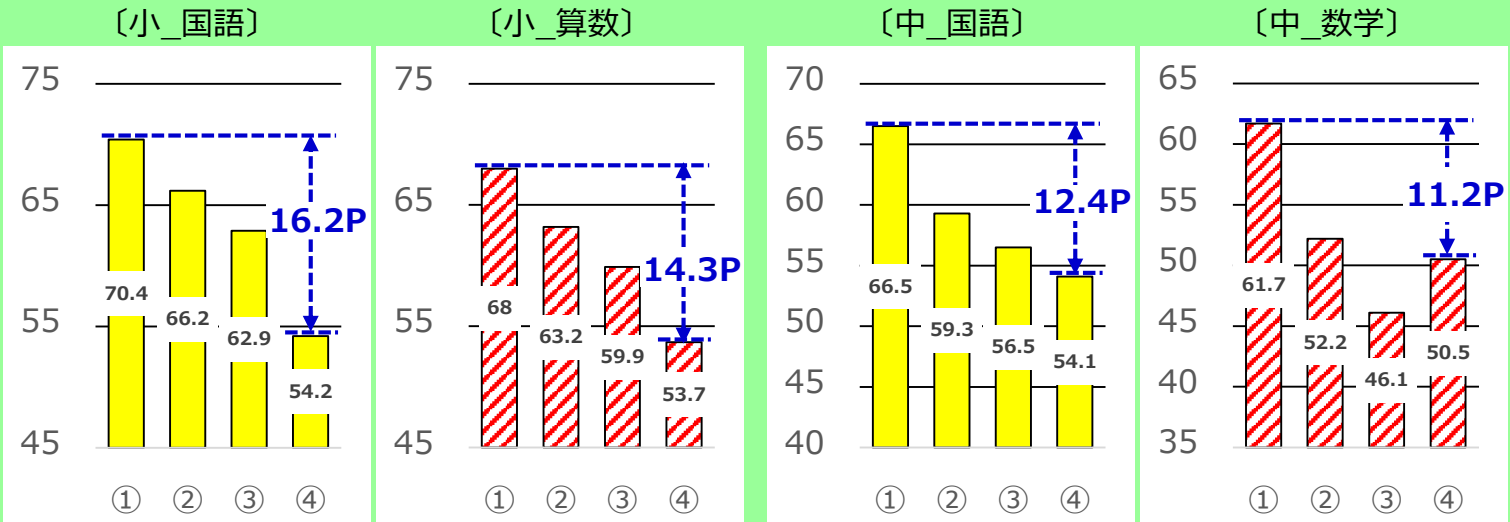
■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



（※ ①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない）

前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



（※ ①…当てはまる ②…どちらかといえば、当てはまる ③…どちらかといえば、当てはまらない ④…当てはまらない）

■現状・課題

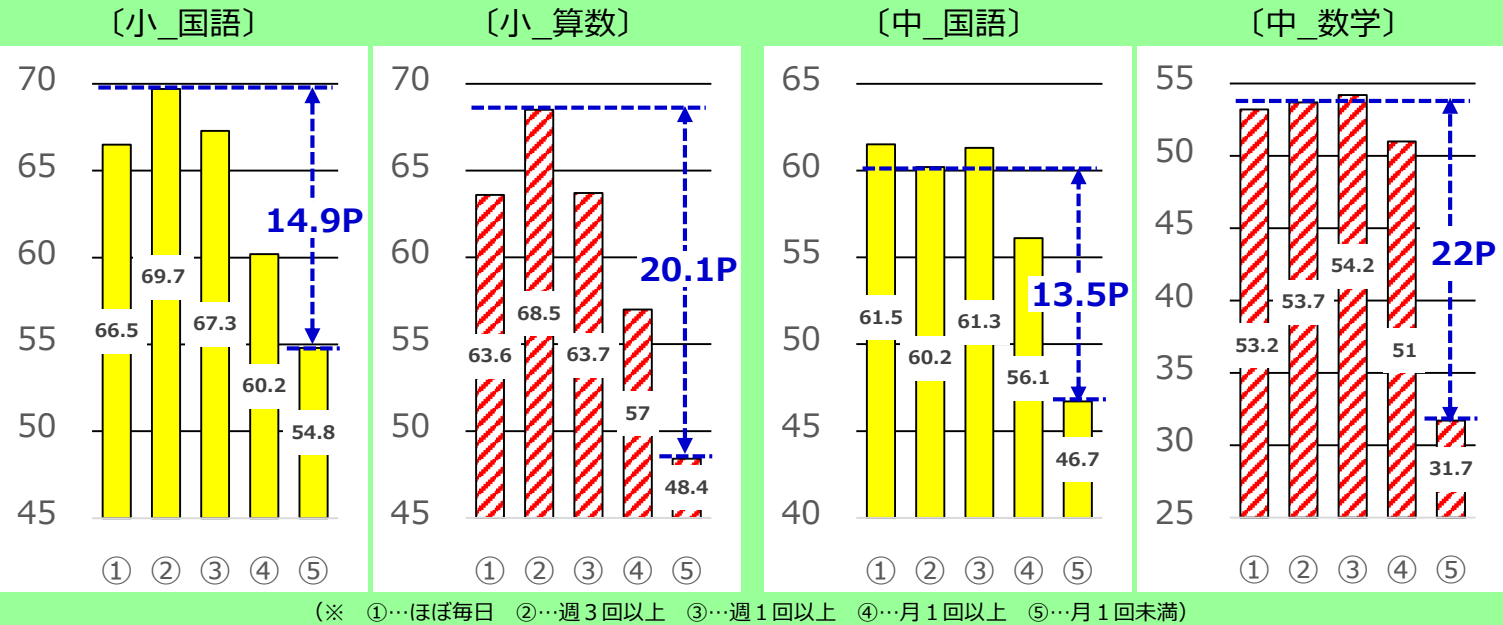
主体的・対話的で深い学びに関して、（左上段）主体的な学びに関する質問に「④当てはまらない」と回答した児童・生徒よりも、「①当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が32.6ポイント、算数が28.3ポイント、中学校国語が25.1ポイント、数学が32.1ポイント高い。また、（左中段）対話的な学びに関する質問に「④当てはまらない」と回答した児童・生徒よりも、「①当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が16.7ポイント、算数が14.9ポイント、中学校国語が13.2ポイント、数学が12.1ポイント高い。また、（左下段）深い学びに関する質問に「④当てはまらない」と回答した児童・生徒よりも、「①当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が23.4ポイント、算数が17.7ポイント、中学校国語が14.4ポイント、数学が22.8ポイント高い。このことは、**主体的・対話的で深い学びをしている児童・生徒は、そうでない児童・生徒よりも学力が高い**ことを示している。資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することができるよう、各種研修や指導室の学校訪問等を通して具体的に指導・助言を行うとともに、「東久留米スタンダード（学習指導編）」の活用を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を継続する必要がある。

さらに、（右上段）指導方法に関する質問において、「④当てはまらない」と回答した児童・生徒よりも、「①当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が16.2ポイント、算数が14.3ポイント、中学校国語が12.4ポイント、数学が11.2ポイント高い。このことは、**自分にあった学び方をしている児童・生徒は、そうでない児童・生徒よりも学力が高い**ことを示している。「令和の日本型学校教育」においては、全ての児童・生徒が一定の目標を達成することを目指し、個々の児童・生徒に応じた異なる方法で学習を進める「指導の個別化」や、個々の児童・生徒の興味・関心等に応じて学習を深め、広げる「学習の個性化」、探究的な学習等を通じて多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を身に付ける「協働的な学び」が求められている。このような、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅢ 質問紙調査（学校生活全般及び生活習慣に関すること）

前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

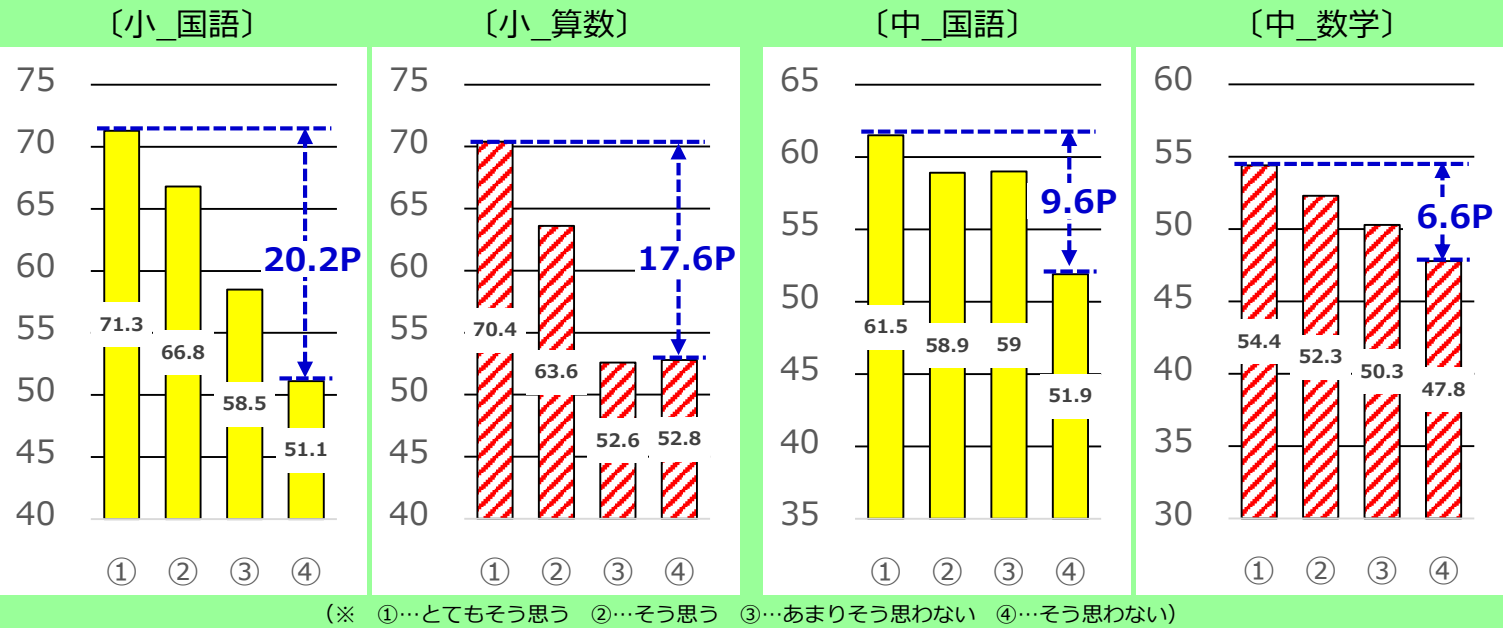
■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



前学年までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）

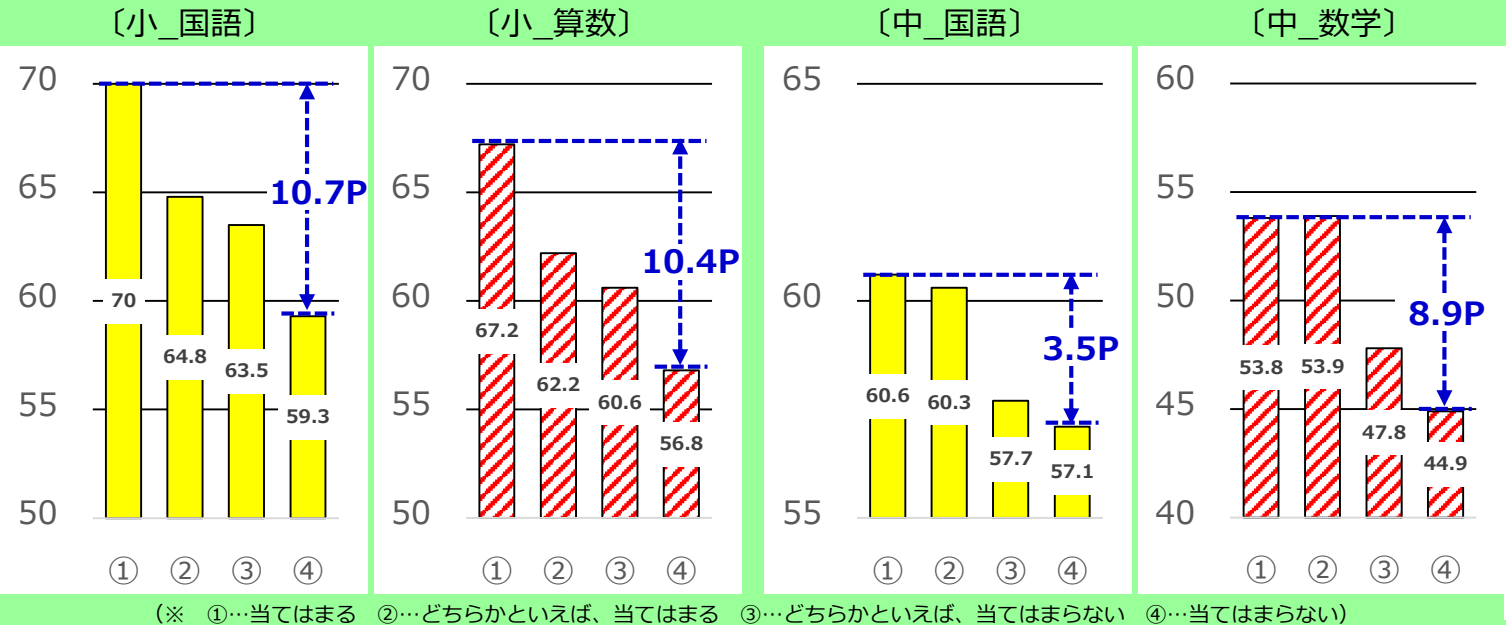


■現状・課題

タブレット端末等の活用に関して、（上段）頻度に関する質問に「⑤月1回未満」と回答した児童・生徒よりも、「②週3回以上」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が14.9ポイント、算数が20.1ポイント、中学校国語が13.5ポイント、数学が22ポイント高い。また、効果に関して、（下段左）「自分のペースで学習」の質問に「④そう思わない」と回答した児童よりも、「①とてもそう思う」と回答した児童の平均正答率は、国語が20.2ポイント、算数が17.6ポイント高く、（下段右）「すぐに調べられる」の質問に「④そう思わない」と回答した生徒よりも、「①とてもそう思う」と回答した生徒の平均正答率は、国語が9.6ポイント、数学が6.6ポイント高い。このことは、**タブレット端末等を効果的に活用している児童・生徒は、活用していない児童・生徒よりも学力が高い**ことを示している。児童・生徒の実態に応じたタブレット端末の基本的な操作技能等の育成とともに、教科等の特質に応じ、タブレット等を効果的に活用した授業実践（個別最適な学びと協働的な学び）の充実を継続する必要がある。

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）

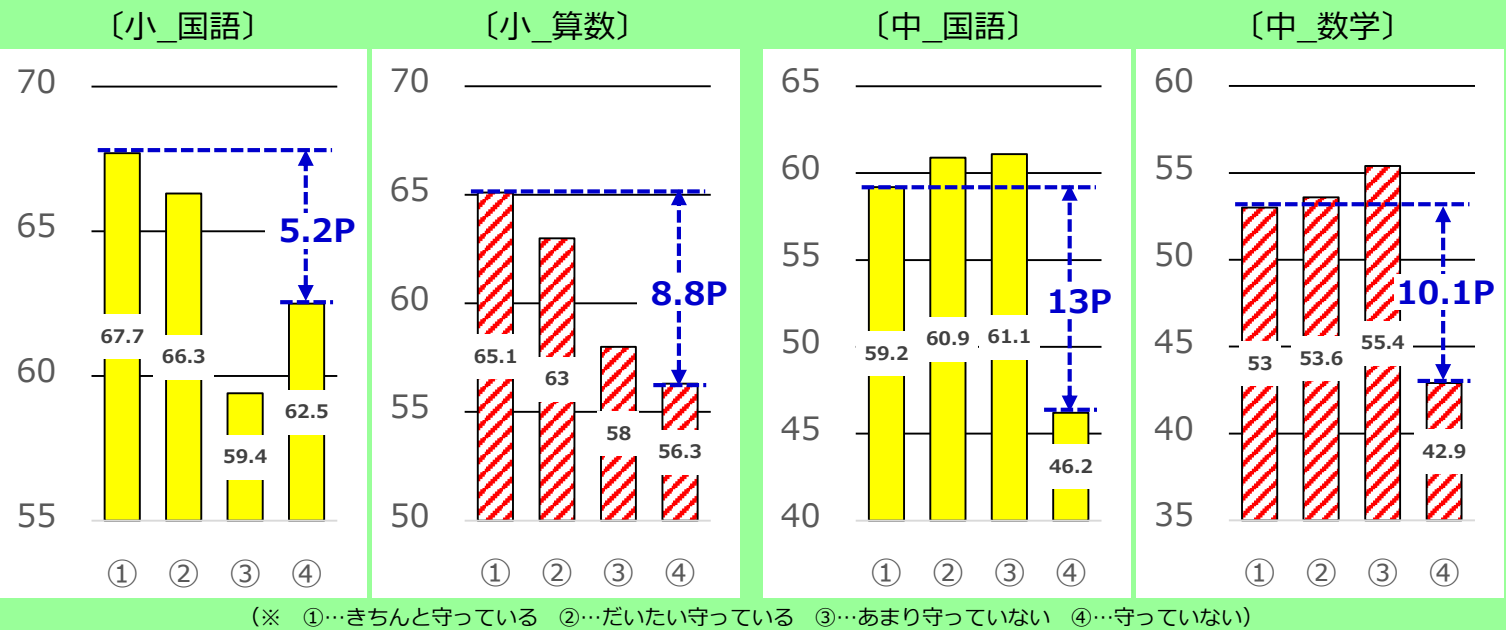


■現状・課題

教師からの承認に関する質問において、「④当てはまらない」と回答した児童・生徒よりも、「①当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が10.7ポイント、算数が10.4ポイント、中学校国語が3.5ポイント、数学が8.9ポイント高い。このことは、**自己肯定感・自己有用感の高い児童・生徒は、低い児童・生徒よりも学力が高い**ことを示している。各教科等の指導や体験活動、地域と連携した活動など、教育活動全体を通して自分のよさを実感する経験を積み重ね、自己肯定感・自己有用感を育む指導を継続する必要がある。

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

■選択肢別の平均正答率（※ 棒グラフ内の数値は平均正答率）



■現状・課題

SNS家庭ルールに関する質問において、「④守っていない」と回答した児童・生徒よりも、「①きちんと守っている」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語が5.2ポイント、算数が8.8ポイント、中学校国語が13ポイント、数学が10.1ポイント高い。このことは、**SNSルールを守っている児童・生徒は、守っていない児童・生徒よりも学力が高い**ことを示している。SNS学校ルールを見直して児童・生徒に指導するとともに、SNS家庭ルールの策定を各家庭に呼び掛け、保護者への啓発を継続する必要がある。